

ま ち の 話 題

豊岡

第84回水道まつり

大切な水へ感謝



中江種造翁の銅像に献花する出席者

5月11日、五月晴れの中、市内泉町の寿公園で、「第84回水道まつり」が開催されました。この催しは、大正11年5月11日に、旧豊岡市に上水道が完成し、これを祝ったのが始まりで、上水道の布設に多大な貢献のあった中江種造翁に感謝の意をささげるとともに、大切な水への感謝を込め毎年行われています。約150人の出席者が、中江種造翁の銅像に献花し、その後、茶道裏千家淡交会豊岡支部の皆さんが、二見水源のわき水を使用して献茶を行いました。また、出席者に抹茶とお菓子が振る舞われ、市民の皆さんにはミネラルウォーター（1.5リットル入りペットボトル）も配布されました。

城崎

温泉まつり

城崎温泉の開祖に

感謝して

城崎温泉で、「温泉まつり」が4月23日から24日にかけて開催されました。これは、奈良時代に外湯の一つ「まんだら湯」を開いたとされる道智上人の命日に合わせ、温泉の繁盛を祈願する行事で、昭和初期から毎年続けられています。期間中は、古式ゆかしい古典行列、外湯の祈祷・稚児行列などの伝統行事が温泉街を舞台に繰り広げられ、週末に訪れた観光客などが春の祭典を楽しんでいました。また、新市の誕生を記念して、七つの外湯がすべて無料開放され、多くの人たちがゆつくりと日ごろの疲れを癒していました。



新緑の柳が連なる温泉街を稚児行列が練り歩く

竹野

第19回北前まつり

はばタンは重いよー！



はばタンを乗せたそりを引く「砂浜ばんばレース」

5月3日、好天に恵まれた竹野浜で、「第19回北前まつり」が開催されました。今回は、新「豊岡市」誕生を祝って交流ステージが企画され、竹野町「轟大神楽」、日高町「そうだる節」、出石町「大名行列」、但東町「赤野太刀振」など、市内各地域の伝統芸能が披露されました。また、地元の子どもたちによる吹奏楽パレードや発砲スチロールと竹で作ったいかだ漕ぎ競争、砂浜で木製そりを引く砂浜ばんばレースなどが行われました。砂浜ばんばレースには、子どもたちの人気者のじぎく兵庫国体のマスケット「はばタン」も出場し、大きな声援を受けていました。

まちの情報などがありましたら、秘書広報課広報広聴係までご連絡ください。



花苗を買い求める人たち。会場内では他に園芸や堆肥づくりなどの相談、抽選会、バザーなどが行われた

日高

ひだかフラワーフェスティバル 愛するまちを 花いっぱい

春の園芸シーズンを迎えた4月29日、日高農業改善センター前広場（日高総合支所隣）で、「ひだかフラワーフェスティバル」が開催されました。まちを花いっぱいにと但馬・理想の都の祭典を契機に始められたイベントは今年で11回目を数えました。

会場には、早くから目当ての花苗を買い求める人たちがたくさん集まり、自分の庭を彩る苗を大事そうに抱えて持ち帰っていました。

また、同イベントに合わせて実施されたコンテナガーデンコンテストには市内から48点の出品があり、豊岡市福成寺の小山操子さんの作品「但馬の里」が県知事賞に輝きました。



家庭円満戦でがんばるお父さん

出石

かむな・休むな・味わうな

第35回そば喰い大会

4月17日、出石総合支所前広場で、第35回そば喰い大会（主催：出石町観光協会）が開催されました。

この催しは、制限時間内に出石名物の皿そばを食べる枚数を競うもので、夫婦と子ども1人の親子でリレーする「家庭円満戦」、3人1組の団体戦、個人戦の3種目があり、県内外から約260人が参加しました。

参加者は、「かむな・休むな・味わうな」のかけ声の中、用意された1万枚の皿そばを次々に平らげ、食べ終わった皿を積み上げていました。

個人戦では、112枚を食べた男性が優勝しました。



10万本のチューリップで描いた人気の「ハローキティ」をバックに記念写真を撮るシャッターマン

但東

2005たんとうチューリップまつり シャッターマン大活躍

豊岡に春を告げるイベント「2005たんとうチューリップまつり」が、4月15日から25日までの11日間にわたって但東町畑山で開催され、延べ約7万人の方が訪れました。

会場には、100万本の色とりどりのチューリップが咲きそろう、人気のフラワーアートでは「ハローキティ」が、5色のチューリップ計10万本で縦70メートル、横30メートルのジャンボ花壇に浮かび上がりました。

今年完成した但馬産ヒノキの間伐材で組んだ高さ約4.5メートルの展望台では、多くの方が展望し、カメラのシャッターを押してくれるシャッターマンも大忙しでした。